

令和4年度

事業報告

社会福祉法人 愛友会

## はじめに

令和4年度もこれまで同様コロナ禍で感染者が年間を通じて増加、減少を繰り返しており、8月には利用者2名と複数の職員も感染しましたが、適切な対応によりクラスターになることなく収束することが出来ました。また、その後も県内施設では多くの感染者が出ましたが、当施設からの利用者感染は無く過ごすことが出来ました。しかし、世の中の状況から、引き続き警戒を実施しながらの日常を送ることになりました。

女性の生活スペースは改築され、ほとんどが個室での生活となり、居室には大型テレビやテーブル・ソファ等を置くことが出来ゆったりとした空間での生活となりました。また、廊下幅やフリースペースもあり、全体的にゆとりを感じる事が出来ます。さらに気密性に関してはより格段に上がっており快適な空間になりました。また、日中活動場所も新しくきれいな場所で活動でき皆さん楽しそうに参加されています。

しかし男性の生活スペースについては少しずつ改善・工夫はされていますが、今後の高齢化に備えて少しでも早く改築出来る様準備を進めてまいります。

施設周辺整備につきましては、年度当初に敷地北側の立木の多くを間伐し、周囲がかなり開けて明るくなり、開園以来初めて施設の敷地から妙義山を望むことが出来るようになりました。さらに間伐後の整備としては草刈り等を実施し、年度末には桜、桃、つつじ、もみじ等を植樹しました。将来の景観がさらに良くなるよう整備を進めています。

令和4年度もご家族、役員各位、さらに多くの方々のご協力をいただき有意義な年度を過ごすことが出来ましたこと、心から感謝を申し上げます。

以下令和4年度の事業報告といたします。

### 1. 主な事業の経過

月	日	内 容	説 明	場 所 等
4	16	保護者会役員会	事業計画案等	四ツ谷
	18	定期健康診断	嘱託医による定期健康診断	施設内
	25	摂食嚥下研究会	委員会	施設内
5	9	胸部レントゲン検診	松井田病院検診車	施設内
	10	花見	利用者主体	施設内
	13	法人監事の監査	令和3年度事業内容全般の監査	施設内
	26	法人理事会	令和3年度事業報告・決算 他	施設内
6	7	福祉協会総会	群馬県知的障害者福祉協会総会	前橋市
	9	映画観賞会	施設内で映画鑑賞	施設内
	17	法人評議員会	法人理事、監事・評議員	四ツ谷
	19	保護者会役員会	保護者会総会・役員会	施設内
	22	福祉協会危機管理委員会	Zoom	施設内
月	日	内 容	説 明	場 所 等
7	4	富岡市内旅行	富岡市内観光	富岡市
	12	サビ管部会	サービス管理者部会	施設内
	28	人権倫理研修	施設内 支援員1名	施設内

8	5	富岡市自立支援協議会	職員 1 名	富岡市 施設内 前橋市 施設内
	9	納涼祭	利用者・職員	
	10	夏季特別研修	職員 3 名会場確認 Zoom 職員 4 名	
9	13	東京都第三者評価 初任者研修 (zoom)	利用者 31 名・評価員 4 名 支援員 1 名	施設内 施設内 施設内 施設内
	14	バーベキュー大会	利用者・職員	
	20	コロナワクチン予防接種	利用者・職員	
10	3	育英短大施設実習	実習生 1 名	施設内 草津町 施設内 伊香保町 施設内 施設内 施設内
	12	草津方面旅行	利用者 6 名・職員 6 名	
	25	インフルエンザ予防接種	利用者・職員	
	27	伊香保旅行	利用者 6 名・職員 6 名	
	28	風水害訓練	利用者 50 名・職員 15 名	
	31	焼き芋大会	利用者・職員	
			育英短大施設実習	
11	22	桐生旅行	利用者 6 名・職員 6 名	桐生市 施設内
	23	わかば会総会	利用者 50 名・職員 5 名	
12	6	非常食提供訓練	職員 8 名	施設内
1	4	ゆうあいフェステバル	職員 2 名	前橋市 施設内 施設内 富岡市 施設内 富岡市
	12	令和 5 年度旅行説明会	利用者 42 名職員 10 名	
	19	委員会事業報告	職員 20 名	
	23	富岡旅行	利用者 3 名・職員 2 名	
	26	コロナ予防接種	利用者・職員	
	31	富岡市内旅行	利用者 4 名・職員 4 名	
2	2	カラオケ大会	利用者・職員	施設内 施設内
	24	育英短大実習	実習生 1 名	
3	18	理事会	定時理事会 理事・監事・職員	施設内 施設内 施設内
	22・23	血液検査	利用者	
	31	退職職員送別会	利用者・職員	

## 2. 運営費収支の状況

### (1) 社会福祉法人 愛友会決算状況

歳入について報酬改定は無かったが、特定の重度利用者の加算により前年度より 500 万円超、物価高騰対策支援金等 200 万円程度増収があった。

歳出は年度当初の人員減により人件費支出が減額した。事業費はコロナ感染対策物品や施設内活動増加に伴う支出も伸びているが、施設外活動が減少したため、全体的には減額となっている。このような状況から今年度の事業活動収支差額は一定の金額は確保することが出来た。

## 1. 健康管理

利用者の高齢化や重度化に伴い、全般の健康状況としては下記の通りとなっています。

### (1) 健康状況

領域	症状など	人数
循環器系等	① 血流の循環不全や血栓に留意が必要な人。	15名
	② 嚥下機能が低下している人（誤嚥、肺炎、窒息等）	28名
消化器系等	① 食欲が低下し、低栄養が心配されている人。	13名
	② 慢性的な便秘で、下剤の服用や浣腸等の処置が必要な人	34名
	③ 尿路感染症等に留意が必要な人。	9名
下肢筋力の低下	車椅子の介助と歩行に付き添いが必要な人。	13名
情緒面の見守り	精神薬を服用している人。	36名

### (2) 利用者の入院

延べ4名（男性2名、女性2名）が入院し、入院日数は245日間でした。入院中は面会が制限されている中で、病院との連携を継続しました。

### (3) 利用者の事故

職員からの気づきの提案と日常的な事故を考える委員会を主体とした安全対策を継続していましたが、2件の骨折、4件の縫合、1件の手術を要する事故がありました。

利用者	発生日	経緯
65歳男性	令和4年7月7日	階段から転落し左目上を裂傷。6針の縫合。
48歳男性	令和4年8月5日	転倒による急性硬膜外出血にて緊急手術行う。
64歳男性	令和4年8月7日	転倒により後頭部を裂傷。6針の縫合。
64歳男性	令和4年8月22日	転倒により右上腕骨を骨折する。
56歳女性	令和4年10月20日	左手第3指基節骨を骨折。原因は不明。
67歳男性	令和4年12月16日	転倒により右前頭部を裂傷。7針の縫合。
64歳男性	令和5年1月23日	浴室にて転倒し右側頭部を裂傷。5針の縫合。

### (5) 新型コロナウイルス予防対策

利用者	
日常の予防	毎日の体調管理、マスクの着用、手洗い励行、不要、普及の外出の自粛、3密の回避、建物内の消毒や換気等を継続しました。
ワクチン接種	小幡医院の往診により4回目の接種は令和4年9月20日に、5回目の接種は令和5年1月26日に利用者及び職員の接種を行いました。
衛生品等の補充	マスク、消毒液、その他の備品管理及び、人が集まる場所には空気清浄機を設置し、衛生環境の保持を継続しました。

### (6) インフルエンザ、ノロウイルス予防対策

ウォーキングや運動を通じて体力をつけるとともに、日常の手洗い、うがいの励行と棟内清掃を継続するとともに、10月～11月に嘱託医と、職員はそれぞれのかかりつけ医により予防接種を全員（利用者、短期入所者、職員）行なった結果、罹患者の発症を防ぐことができました。

## 2. 利用者支援

### (1) 個別支援計画の実践

サービス管理責任者が個別支援会議を招集し、(本人、ケース担当、看護師、栄養士、行政機関、主治医等) 本人と保護者の意向を踏まえた案を作成し、支援員会議で検討し、本人の同意(計画内容の理解の促進)を経て支援を実践しました。

保護者の意見や考えを聞き取る場を設けることが困難な保護者には、個別支援計画書(案)を郵送し、意見の集約と同意を得ながら進めました。以後は中間の期間で評価(モニタリング)し、再度、個別支援計画書の作成と実践を継続しています。

### (2) 摂食・嚥下の取り組み

NPO法人代表の山川医師を招いた委員会活動は下記の通りに実践をしました。

項目	実践内容	
毎月の研究会	診断を踏まえ、評価を行ない食事形態と本人の嗜好との調整を継続しました。診断と本人の意向に添った食事の形態は以下の通りとなりました。	
	食事の形態	人数
	常食で支障がない人	23名
	診断の理解が得られず常食を提供している人	1名
	軟飯、ペースト、刻み食等の提供が必要な人	26名
食事の提供	安全面は個々の形態に合った食事を提供し、窒息や誤嚥予防を継続しました。必要な方は個別に支援を行いました。	
咀嚼訓練	特に窒息等の危険性が高い人と若年層(20歳～30歳代)を対象にして、個別でトレーニングを継続しました。	
低栄養の改善	毎月の体重測定を通じて、主治医、看護師、栄養士と連携して通常の食事に加え、栄養補助食品を提供し、健康管理に努めました	

### (3) 日中活動

班	活動の状況	販売額
室内援助班	織物(ラグマット等)や手芸(アクリルたわし、ビーズコースター等)の販売は妙義、下仁田道の駅とあい愛プラザの委託販売の継続した結果、前年度並みに収益を上げることができました。	約12万円
農耕班	所属する利用者が減っていく状況と、次世代の担い手不足が続いていますが、顧客に満足いただける様に質の向上を継続しました。安全対策は防御柵の設置を継続し、注意喚起をした結果、事故はなく活動をおこなうことができました。	約216万円
教育治療班 1グループ 2グループ	障害特性(自閉的傾向、統合失調症等)や健康維持(筋力低下や便秘予防)の支援を少グループ編成で実践しました。 ①運動が必要な利用者は林道やグラウンドのウォーキング(1～3km弱)	

	<p>を実践し、雨天時は室内の中でDVDを使い体操を行ないました。</p> <p>②創作活動が得意な利用者には絵画や折紙で、作品を制作しました。</p> <p>③利用者の希望に添い活動にドライブを取り入れ実践しました。</p>
<p>教育治療班 4グループ</p>	<p>①高齢者や看護が必要な利用者は看護師、栄養士と連携を図りながら個別の状態に合った支援計画を作成し、日々の支援に取り組みました。</p> <p>②長期間療養が必要な利用者への支援（令和4年3月余命一ヶ月旨の診断）では、主治医の診断に基づいた計画を主体とし、毎日の健康変化に注意し、現在も支援を続けています。</p> <p>③入院支援は、本人の面会と入院先の病院との連絡調整を行ない、退院後は日常生活に戻るまでの看護やリハビリを行ないました。</p>
<p>クラブ活動</p>	<p>外部から指導者を招く活動は休止し、ダンスと音楽クラブを継続しました。練習成果は納涼祭やクリスマス会で発表し、あすなろ祭はビデオで撮影し、成果を発表しました。</p>

#### （４）記録方法の改善と活用

日常の気づきの記録に加え、個別支援計画の取り組みにおける記録をより客観性をもたせる取り組みを研究し実践した結果、支援計画の中間評価する上で活用に役立ち、個別記録は保護者が閲覧を希望した際に対応ができる様に保存しています。

#### （５）社会参加と社会資源の活用

コロナ禍に合った生活の楽しみとして、毎月、施設内でテイクアウトの機会を設けるとともに、外出先は3密を回避するために、富岡、安中市内の公園等で、気分転換を図りました。

旅行は、日帰り旅行に変更し、群馬県内の観光地（四万、草津、伊香保、桐生等）に出かけ楽しんで頂きました。

#### （６）自治会(わかば会)活動の活性化

運営委員（利用者）8名、顧問2名（支援員）の構成で、主な事業内容は意思決定支援（旅行候補地の説明会の開催）及び旅行、行事計画の大枠の編成を行ないました。

#### （７）奉仕活動

利用者自治会（わかば会）の役員、顧問による「町内幹線道路の空き缶、ごみ収拾」はコロナ禍により中止しました。

#### （８）地域社会との交流

妙義小学校、高田小学校との交流学習や妙義白雲寮との合同納涼祭は、新型コロナウイルス感染予防のため、止む無く中止し、その他の交流の機会も中止させていただきました。

### 3. 研修

項目	内容
専門研修	リモート研修(強度行動障害者支援者養成研修等)に参加しました。
職場内研修	施設内の研究委員会や班活動の実績報告を通じて、成果と課題を共有しました。
資格取得	サービス管理責任者、社会福祉主事、介護実務者等の取得を目指した職員の支援(研修費補助や勤務調整等)を行ないました。

### 4. 委員会活動

委員会名	内容	
倫理	職員行動規範	不適切な対応を無くすため、直接処遇職員中心に、周知徹底を図りました。
	ハラスメント対応	相談窓口を設置しています。また、アンケートを実施しました。相談はありませんでした。体調の異変や基礎疾患を抱える職員には、勤務編成を整えました。
虐待防止	委員会による定期的な会議	委員会の設置が義務化となり、定期的な会議を行い、評価を行うとともに、情報の共有を行いました。
	虐待防止マニュアルの周知徹底	定期的に群馬県虐待防止マニュアルに基づいた手順や防止策を盛り込んだマニュアルの周知徹底を図りました。
	職場内研修	職員が研修で学んだ内容をフィードバックする目的で、研修を行ないました。
事故を考える	日常の取り組み	日常の気づきは定期的に生活支援員が主体で研究した結果、早期対応につなげられました。また、事故の発生時は原因を分析して再発防止策に取り組みました。
	非常食提供訓練	近年の災害に備え、ライフラインが停止したことを想定し、ガスボンベや五徳を使用し、アルファ米の提供訓練を行いました。
	風水害訓練	①利用者は避難訓練を行いました。 ②職員については実際に、浸水があったこともあり、排水ポンプの使用訓練を行いました。
	防犯訓練	新任職員に富岡警察署から指導された対処方法を中心に研修を行ない、さすまたを使った実技訓練を行ないました。
業務継続計画	令和6年度の計画作成の義務化に向けた準備を行い、現在は最終調整の段階となっています。	

食事提供	摂食、嚥下研究会や生活支援員と調理員が連携して、食形態の変化に基づいた効率的な配膳方法や個々の機能に合った食器の提供に努めました。
居室環境	利用者の意向に添った人間関係の調整は随時行ないました。その他は家電、家具類の点検や消耗品の入れ替えを行ないました。
感染症予防	①日常的に手洗い、うがいの呼びかけを継続するとともに、10月には予防接種（インフルエンザ）を行いました。 ②新型コロナウイルス対策は厚生労働省のガイドラインに基づいた対策（職員、利用者の健康チェック、消毒、手洗い、うがいの徹底、不要不急の外出の自粛等）を継続しています。また、クラスター対策として、陽性者の罹患を想定した対策の準備を始めました。 ④ 8月にコロナウイルスが施設内に入ってしまったが、利用者2名、職員3名の罹患に留めることができました。対応について良かった点と、悪かった点を評価・分析し対応マニュアルの改善を行いました。

## 5. 職場内研修

日	曜日	研修テーマ	参加者	
			職員	外部講師
5/19	木	感染症予防委員会「ゾーニング」について	17	0
9/15	木	意思決定支援を学ぶ	18	0
10/20	木	強度行動障害について	20	0
11/17	木	虐待防止・身体拘束適正化について	17	0
11/21	木	摂食嚥下勉強会	17	1
1/15	木	委員会活動報告会	18	0
2/16	木	支援課事業報告会(農耕班・室内援助・1グループ)	17	0
3/16	木	支援課事業報告会(2A・2B・4グループ)	16	0



令和4年度 苦情解決委員会報告（令和4年4月～令和5年3月）

1. 相談を受けた利用者

申し出の方法	利用者	今年度の受付結果	件数
本人から申し出た人	38	未解決	89
職員から声を掛けて話を聞いた人	0	解決	12
		評価点とその他	17
		全受付件数	118

2. 苦情・要望の内容と結果

(1) 未解決

No	内 容		件数	理 由
1	利用者関係	他利用者の発言	13	周囲から注意を受けても続いてしまう
2		他利用者の行動	47	
3		利用者間の人間関係	26	相性の問題による
4	生活関係	外出・帰省	3	実施困難による
5	合 計		89	

(2) 解決

No	内 容		件数	理 由
1	利用者関係	他利用者の行動	4	委員会による聞き取りと支援員による取り組みによる。
2	生活関係	施設の環境	6	
3		日中活動	2	
4	合 計		12	

(3) 評価点とその他

No	内 容		件数	結 果
1	利用者関係	他利用者の良い点	2	支援員の取り組みによる
2		帰省に関する良い点	2	
3	生活関係	施設環境の良い点	1	
4		日中活動の良い点	2	
	その他	話を聞いてほしい	10	
			17	